

**乙訓圏域障がい者自立支援協議会**  
**令和3年度 第4回人材確保育成部会 会議録**

日時 令和4年1月20日(木) 10:00～

場所 オンライン開催

出席者 12名

乙訓障がい者基幹相談支援センター、乙訓ひまわり園地域連携室、向日市社協障がい者地域生活支援センター、こらぼねっと京都、大山崎町社会福祉協議会、乙訓若竹苑、障がい福祉センターあらくさ、障害者支援施設晨光苑、乙訓の里、長岡京市商工会、向日市障がい者支援課、大山崎町福祉課

欠席者 2名

乙訓保健所福祉課、長岡京市障がい福祉課

配布資料

- ・次第
- ・新聞記事
- ・乙福駐車場地図

### 会議概要

事務局 ・第4回人材確保・育成部会を始める。乙訓保健所福祉課と長岡京市障がい福祉課の委員はコロナ感染対応のため欠席。向日市障がい課支援課の委員はカメラなしのパソコンで参加される。

部会長 ・今年初めての部会である。残念ながらズーム開催となった。私の事業所でも家族にコロナ陽性者が出て出勤できない職員がいる。法人間でそういったことも共有できればいいと思う。

#### 1 チラシの確認

部会長 ・4パターン案をチームで作成していただいている。コンセプトの説明をお願いしたい。

委員 ・いろんな意見があがっていた。職員を円形に配置してつながりがあるように輪にした。背景は、緑色のものと、乙訓らしさを出すために竹のものを作成してみた。「ここであなたと笑うしあわせ」をあらくさ利用者の方にかいてもらってメインにした。職員には福祉の世界に入ればこういうやりがいがあるということを書いてもらった。

委員 ・職員がやりがいを感じているのを全面に出している。

部会長 ・今日ご意見をいただいて4つの中から決定したい。どうやって選ぶのがよいか。

事務局 ・緑の背景のもの1枚と、竹の背景3つの中から1枚が選ばれて、ふたつに絞られているので、どちらかにしたい。

部会長 ・今参加している委員で決めたい。背景のどちらかに挙手願いたい。(ズーム画面にて挙手)

- ・緑色が挙手6名、竹が6名となった。同点だがどうしようか。
- 委員 ・竹の元データが荒いのだろうか。もっと鮮明なら竹がいいと思うのだが。
- 委員 ・それはたぶん変わらないと思う。
- 部会長 ・印刷を発注するわけではないので2パターン印刷しようかと思う。どちらも良いという意見である。
- 部会長 ・裏面はどうか。
- 委員 ・障害福祉のしおりから地図をひろっている。
- 委員 ・色をいれた方が良かったらどうか。
- 委員 ・QRコードを貼るスペースは十分か。
- 委員 ・QRコードをこれから貼ることになるが、小さくても大丈夫なものなのか。
- 部会長 ・QRコードはかなり小さくてもよい。
- 委員 ・白黒にするか、カラーにするか話をしていただろうか。
- 事務局 ・表面がカラーで、裏面は手書きでお願いした。うすくパステルで色をいれた方がいいように思う。あと各事業所が作成するQRコードを貼ることになる。PDFなのでこれをそのまま加工することはできないのか。
- 部会長 ・特別なアプリを使えばできるように思うが、
- 委員 ・保存方法を変えればできる。
- 部会長 ・原本を何で読み込むか。
- 委員 ・元データをあまりさわると大変なのでマップ上にQRコードをはることにしていた。番号を打って右側等にQRコードを並べる方法もある。
- 事務局 ・読み取る時にまざらないだろうか。
- 部会長 ・地図上で集中するのは左上の3事業所になるがスペースがあいているのでうまくいくと思う。
- 事務局 ・若竹苑は募集しないのでQRコード貼らない。あらぐさが上、晨光苑が下、こらぼねつとが上、ひまわり園が上、乙訓福祉会が上、楽苑が下に貼れば、今回はちらばる。
- 部会長 ・QRコードを入れても目立たないことはないと思う。
- 委員 ・カラーにするかどうか。デジタルで色づけをするというより、ここまで手書きなので色鉛筆などで淡くいれていただけたらどうか。
- 委員 ・地図全体に淡くいれるか。
- 部会長 ・事業所名が目立つようにするか。どうだろうか。
- 委員 ・支援校の名称が間違っている。
- 委員 ・ひらがなの「が」がない。
- 委員 ・私の事業所の「ライフサポート」と「ぱぐ」を入れていただきたい。
- 部会長 ・これで表面、裏面ともにできあがるので、完成すれば事務局から共有いただきたい。
- 委員 ・実際にははじめにお披露目するのが長岡商工会議所の就職フェアになる。
- 委員 ・2月25日の開催で進めている。チラシの画面共有をお願いしたい。
- 委員 ・コロナ感染状況により中止になる可能性もある。バンビオで開催するが、密を避けるために、2年前は33ブースぐらいだったが、今回10ブースに抑えるように厚労省から要請があった。簡易ブースでチラシをおいて案内いただくことになる。求職者と面接をすることはできない。良

ければご参加いただきたい。

部会長 ・感染拡大している中でチラシをおかせていただけるということで感謝している。ブースに何人も押しかけることもできなくなったので、どんな形で宣伝したらよいか。

事務局 ・本格的なブースに座るには求人票の作成も必要であるとお聞きしているのので、今回は乙訓での障がい者施設での一体とした案内としている。試行ということで部会内の事業所の紹介をまずさせていただく。興味があればチラシの QR コードを読んでみて、裏面の問い合わせ先に連絡していただいてインターンシップにつなげることになる。受付近くにちらし配布のブースをいただいてそこに一人か二人立って案内したい。

部会長 ・事務局主導でお願いしたい。

事務局 ・小林委員と連絡をとって設定したい。QR コードを1月中につくってチラシが完成すればカラー印刷を各事業所で20枚ずつぐらいしていただき私が回収する。当日は私が行こうと思っているが濃厚接触者になると違う方になるので承知してほしい。

部会長 ・例年どれぐらいの集客か。

委員 ・3年前は200人から300人ぐらい。今年はハローワークから入場制限を求められているのでよめない。規模縮小なので参加者は減ると思う。

部会長 ・それを見越してチラシ枚数の指示を事務局からお願いしたい。

・事業所紹介の QR コードの集まりぐあいはどうだろうか。

事務局 ・ゼロだ。

委員 ・裏面の地図に記載する事業所名はそれぞれこれでいいだろうか。

部会長 ・「乙訓ひまわり園」にしてほしい。「ひまわり園」は他の地域にもよくある。

委員 ・「あらぐさ」でいい。

委員 ・「晨光苑」でいい。

委員 ・「乙訓の里」、「ぱぐ」と、長い名称だが「ライフサポート事業所」でお願いしたい。

委員 ・「晨光苑」にふりがなをいれてほしい。「農」とよく間違えられる。

## 2 インターンシップの交流

部会長 ・インターンシップはどのようにしようと思われているか交流したい。

・コロナ感染が懸念されるのでオンラインになるか。

・ひまわり園は動画で館内見学をして口頭で解説を加えている。録画を使わずにズームでやりとりをしながらリアルタイムで動くのは難易度が高い。

委員 ・高齢の方では、仕事をする上で必要なことを知ってもらうために認知症やターミナルケア、対応の仕方の話をしている。障がい者の方はどうしようか考えている。講義だけではなく、施設見学、現場の声を聞くの2つは絶対いる。身体障がい者の入所施設なので施設の目的への理解を深めてもらうことぐらいしかリモートではできない。それでは時間が半日しかもたないのでインターンシップとは言えないのではないか。来てもらうなら「百聞は一見にしかず」で、実際に仕事をして利用者とも接してもらえるが、リモートはまだ未確定である。

部会長 ・オンラインで1日インターンシップをするのはほぼ無理だと思う。3時間でも長い。講義形式で事業所の紹介、見学の動画、座談会の3つになる。あと、課題達成型でテーマを設定して参加

者に考えて発表してもらおうのを入れると受け身にならずによく時間も使える。

委員 ・せっかくながらつながっているのに、色んな事業所に行ける企画があってもおもしろいと思う。オンラインは施設紹介ぐらいになってしまう。

部会長 ・この部会の主旨は乙訓でインターンシップを受けていくことなので、チラシを見て問い合わせてきた人に自分の事業所説明後に、友だち紹介のように自分のところのないサービスをしている別の事業所へ行ってみることを勧められるといい。

委員 ・インターンシップ自体を職員が理解できていない。実習との違いがわからない。実習であれば実習簿に書けるものを用意するが、事業所のことを知ってもらう説明をするのだろうか。何をどのように楽しさを伝えればいいのかピンとこない。オンラインとなるともっとわからない。

部会長 ・実習は勉強に来ているのでそのことしかないが、インターンシップは、職員との座談会などで職員のプライベートの話をしたり、ここで働くイメージをもってもらえる機会だと捉えている。

委員 ・以前、実習はその人の勉強のために必要なことを伝えるだけだが、インターンシップは仕事を感じてもらうために新人受け入れと同じ対応をしていると聞いたことがある。その法人では大学の単位につながるインターンシップを長期間で受け入れて、仕事を見てもらい知ってもらうようにつなげている。仕事内容だけではなく実際にそこで働くということはどういうことかを話している。それを1日でそれもリモートでとなると難しい。アルバイトのように考えてもいいのかとも思った。目的が違うという線引はした方がいい。

委員 ・インターンシップをしたことがないので、まずは小さくしてみたい。どんなインターンシップをするのかを事務局に伝えるといいのか。時間数などの量も検討がつかない。

事務局 ・乙訓の障がい者施設一体での人材確保をねらっているのだから、いろいろな事業所に行かれるといいと思う。チラシの連絡先は事務局になっているので、問い合わせがきた段階でどこに行きたいかを聞き、各事業所を案内することになる。そこで本人とインターンシップの内容をうち合わせさせていただくイメージである。

部会長 ・期間に決まりはないと思うが、1日だと「インターンシップ」と名乗っていけないかもしれない。

委員 ・インターンと試用期間とまた違う。明確な定義があると思うが今すぐにはわからない。

委員 ・キャリアセンターから「1日のインターンシップってどうなのか」と逆に言われたことがある。1日でその仕事がわかるはずがないので、私の事業所でマイナビなどに出す時は、1日チャレンジや体験としている。

部会長 ・1日でインターンとは名乗れないと聞いたことがある。乙訓で何日かかけて事業所をまわるようなことはインターンと言ってもよいが、単独では1日体験や見学会という方がいいかもしれない。いろんなパターンがあるのでできるところから始めるのがいい。事務局に問い合わせがあれば、まず見学からということになるのではないかな。見学案内してから、1日体験してみますかというステップを踏んでいくような気がする。まずは2時間ぐらいの見学プランをたてて、よければ現場に入ってもらおう。いきなり1日現場で受け入れなくてもいいのではないかな。

事務局 ・それでいいと思う。見学かオンラインか選ばれることになると思う。事業所の見学、職員のメッセージなどをオンラインで流して入り口とし、身近に感じていただけるといい。見学に行くのもハードルが高い場合がある。

部会長 ・問い合わせも緊張する方もおられるので、いきなり行くのではなく、とりあえず見てみませんかというスタンスがあってもいい。困ったことがあればみなさんと共有したい。

委員 ・若竹苑では就労につながる体験を実施するのが難しいので、今検討されていることにまるまるのっかることはできない。実習に来られた方などに他の事業所のインターンシップ一覧があれば紹介することができると考えている。

・私の事業所はインターンシップができないのにチラシに載っていると紛らわしくないか。

事務局 ・若竹苑は総務課が求人を出している。将来的にこちらに載ることもあるかもしれないが、2月25日のチラシ配布に向けては参加しないということで省きます。

部会長 ・表面には若竹苑の職員は載っている。裏面の事業所名とQRコードを今回ははぶくことにする。

・インターンシップの中身はまだ確定せずやってみないとわからない面もあるが、それぞれ工夫をして共有したい。各事業所でメニューが固まってきたら、事務局で集約をして、問い合わせがあったら案内できるといいと思う。

### 3 次年度の課題と方針について

副部会長 ・今回も深い話のできたのでそれを柱立てしてまとめようと思っている。

・インターンシップの中身の在り方は次年度の課題だと思う。

・転職者セミナーも今年度の柱立てになっていたが、チラシやインターンシップと関わりがあると思うが、みなさんのご意見をいただきたい。

部会長 ・転職者向けセミナーという形では今年度実施していない。商工会の就職フェアに参加することは転職者と位置づけられる人の受け入れと考えられる。次年度はもっと力を入れた方がいいだろうか。コロナがおさまったら商工会とのつながりを強化していくか。全くゼロから転職者向けセミナーを立ち上げるのは大変だと思う。

事務局 ・新卒者、転職者とわけずに考えてきている。正職員だけではなく学生のアルバイトから入職してもらってもいいと思う。幅広く知ってもらい、自分の職業になるのかを考えてほしい。転職者向けのセミナーは、商工会などのイベントでリンクするところを教えていただいて、使わしてもらうことができればありがたい。

部会長 ・もともとコロナ禍で失業された方を福祉で受けることができないかという発想だった。次年度新たに立ち上げるというよりこれまでのつながりを活かしてやっていく方が現実的だと思う。

副部会長 ・商工会などと共に新たな考え方を見いだした上で、人材確保に関してはチラシ等でやっていくが、その上で「乙訓で働きませんか」という幅広い意味での募集をしていくことを来年度の目標に設定することにしたい。

部会長 ・インターンシップの乙訓モデルの窓口業務も次年度整理したい。現在は事務局でやっている。

事務局 ・私ひとりで自立支援協議会の事務局を担っているので、乙福の中で体制作りを考えていただいている。前回、乙福の委員に依頼したが進捗を報告してほしい。

委員 ・乙訓モデルの窓口業務を乙福に依頼されたことに関して、まず所属長に報告した。実際どういったことを求められているのか資料が乏しいので固めていただかないと検討することが難しい

ということだった。

- 部会長 ・まだ何も動いていないので、今回のチラシには夏川 GM の名前が載っている。どのような動きがあるのか精査してお願いする内容を明確にする作業が必要だ。それも次年度の課題となる。
- ・この部会は人材確保だけではなく育成の部会でもあるので、今年度、圏域の新任研修を行った。時間帯やオンデマンドでの配信などについての検討も課題となる。各法人の人材育成方法の交流もできるとよかったが今年度実施できていないので、できれば横のつながりを強くしたい。
- 副部会長 ・報告書を作成して次回提出するのでご検討願いたい。
- 部会長 ・次回部会は令和4年度の事業計画の内容確認となる。

#### 4 その他

- 事務局 ・人材確保をしている連携法人を紹介した新聞記事を配布している。参考にしてほしい。
- ・乙福の駐車場変更について案内している。確認してほしい。
- 部会長 ・他に情報提供あるだろうか。
- ・次回は3月4日金曜日、1時半で。
- 事務局 ・場所は乙福の大会議室になると思う。保健所はコロナ対応で使えない。感染者数が増えればオンラインとなる。
- 部会長 ・できれば、事業計画案を事前に目を通しておいてほしい。
- 事務局 ・2月25日の就職フェアにチラシは配布するので1月末までにQRコードを送付してほしい。裏面の地図の訂正も完成したら私で集約して完成させようと思う。
- 委員 ・データをまとめて送ってもらえば私が完成させる。
- 事務局 ・お願いしたい。
- ・早く完成させて、表面、裏面あわせて各部会員に送るので、できる範囲でカラー印刷をお願いする。全部で200枚あればいいだろうか。また小林委員とやりとりをさせていただきたい。
- ・各事業所、インターンシップとまではいかななくても、まず自分の事業所のことを知ってもらう何かを準備してほしい。
- 部会長 ・これで第4回部会を終了する。お疲れさまでした。